

ケアマネジメント研修会（10回シリーズ）

医療法人白寿会 福島市清明・吉井田地域包括支援センター
〒960-8165 福島県福島市吉倉字谷地36-1

助成事業の概要

2025年に向けて、75歳以上高齢者人口の急速な増大とともに、認知症高齢者や一人暮らし高齢者の増加も見込まれており、地域全体で高齢者を支える必要性が高まっている。

こうした中、要介護者等に、その人にふさわしい適切な保健医療・福祉・介護サービスを総合的に提供することが、これまでも増して求められるようになってきており、地域包括支援センター職員とケアマネジャーに対する期待は大きい。

一方、社会保障審議会や政府・与党社会保障改革本部での議論の中では、特に、現状におけるケアマネジャーの資質について、様々な課題も指摘されている。

そこで、当センター職員と圏域内のケアマネジャーが互いに連携・協働し、介護保険制度を運用する要としての役割を果たしていくことができるよう、その資質向上やケアマネジメントの質の向上に資する体系的かつ実践的な研修を10回シリーズで開催した。

事業の成果

本研修を通して、地域包括ケアシステムの実現に向け、当センター職員と圏域内のケアマネジャーの連携及び共通理解を深めていくという所期の目的は達成できたものとする。

具体的には、

- ①介護保険の理念である「自立支援」の考え方の共有

- ②利用者像や課題に応じた適切なアセスメント能力の向上

- ③インフォーマルサービスとの連携促進とケアプランへの位置付けなどである。

同時に、参加者からは一様に「介護保険以外のサービスとのコーディネートや多職種との調整の仕方を学ぶことができた」「利用者のニーズを的確に反映した自立支援型ケアプランを作成するのに大いに役立った」など、好評を博した。本研修は、より良質で効果的なケアマネジメントの手法を習得することで、ケアマネジャーが抱える課題の解決策を導き出す一助になったのではないだろうか。

また、これ以外の成果としては、

- ①地域ケア会議の開催回数の増加
- ③認知症の人とその家族を主体とした認知症カフェの開催
- ④専門職と住民による地域づくり委員会(仮称)の立ち上げ

といった取り組みにも発展している。

ただ、要介護者等のトータルな暮らしの支援、他制度との連携強化といった視点も含めて、いかにケアマネジメントの実践水準を高めていくかという課題も残されており、今後はこうした課題を解決していくための研修を行っていくこととなっている。

成果の広報、公表

- ・ホームページへの公開

本研修の取り組みや成果について、一括でホームページ上に公開することになっている。

・センター通信への掲載

定期発行している当センターの広報誌に本研修の内容等を掲載するとともに、町内会の回覧板を活用して圏域内の全戸に配布する。

・行政への報告

福島市に毎月提出するセンター活動報告書の中で本研修の実施報告を行い、併せて29年度事業報告書にも明記したことで、福島市が設置する19の全てのセンターにも周知された。

・意見交換会の開催

本研修終了後に、研修を受講した全ての参加者との意見交換会を開いた。

全10回の研修に対する評価を共有するとともに、改善点等についても意見を出し合い、それらを次年度の取り組みにつなげていくこととなった。

・地域課題の抽出とその解決を目指す住民ワークショップの開催

・国が進める「地域包括ケアシステムの深化と地域共生社会の実現」を理解するための勉強会の開催

といったことが既に計画されている。

今後の展開

本研修終了後も引き続き、当センター職員と圏域内のケアマネジャーの相互の資質向上に資する取り組みが始まっている。具体的には、

・受動的な座学式研修ではなく、参加者自らが主体的に関わる「事例検討会」を定期的に（2か月に1回）開催し、その事例に生じた具体的な課題を解決する力を身につける。

・主任ケアマネジャーによる「スーパービジョン研修会」を年4回開催し、経験の浅いケアマネが一つの事例を通して理解できたことを他のケースにも応用できる力を養う。

といった研修会がスタートした。

その他、地域の関係者も含めた地域包括ケアに対する共通理解を深めるための取り組みも決まっている。例えば、

・地域住民の疾病予防や健康増進に関する講演会の開催